

2024 年 5 月 31 日

音楽科

桑原 哲章

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2023 年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養／専門／教職)	科目名	種別 (必修／選択)	開講時期	受講者数
専門	専修実技 1	必修	前期	2 名
専門	専修実技 2	必修	後期	2 名
専門	専修実技 3	必修	前期	1 名
専門	専修実技 4	必修	後期	1 名
専門	音楽理論	必修	前期	9 名
専門	音楽キャリア 2	選択	後期	9 名
専門	学内・学外演奏 1	必修	通年	21 名
専門	コード演奏法 A	選択	前期	3 名
専門	コード演奏法 B	選択	後期	3 名
専門	音楽 1	必修	前期	16 名
専門	音楽 2	必修	後期	16 名
専門	音楽 3	必修	前期	13 名
専門	音楽 4	必修	後期	13 名

2. 教育の理念

(音楽科)

- ・音楽の専門実技については、技術力は勿論の事、表現力についても自ら考えることが出来る力の育成。
- ・音楽の理論についての理解を深めると同時に、そのことが実技とも密接に関係していることが理解できること。
- ・音楽の基礎部分を徹底的に身に付け、卒業後に応用していくことが出来る力の育成。
- ・音楽を通して専門性のみではなく、人として成長できるように向上心を持ち続けることが出来る人材の育成。

(子ども学科)

- ・ピアノによる弾き歌いの技術を高める事を第一としながらも、音楽は子ども達とのコミュニケーションを図る為の一つの手段である事が理解できること。

3. 教育の方法

(音楽科)

- ・基礎部分の習得を第一の目標としている。その為、課題の繰り返し実施は必須であるが、学生の興味関心を維持するために様々なアプローチで実施をしている。
- ・教科書のみではなく資料教材を作成し、学生の理解度が順次積み上げられるように工夫している。また「大切にされる資料作り」を常に念頭に置き、卒業後にも見返してもらえる資料

を目指している。

- ・板書については常に「見やすさ」と「分かりやすさ」を追求し、授業後に写真を撮ることにより自らの振り返りとしている。
- ・授業への ICT 導入を積極的に行うことにより、学生が取り組みやすい環境作りを行っている。
- ・振り返りを実施し学びの見える可を行うことにより、学生自らが課題を発見できるようにサポートを行っている。

(子ども学科)

- ・週 1 回のレッスン時間においては、基礎練習と弾き歌い楽曲を必ず実施する事により、楽曲演奏が基礎の上に成り立っている事に関連付けて指導を行っている。
- ・振り返りを実施し学びの見える可を行うことにより、学生自らが課題を発見できるようにサポートを行っている。
- ・LINE を活用し、学生が撮影した演奏動画に対してフィードバックを行っている。

4. 教育の成果

(音楽科)

- ・資料教材については、学生が積極的に取り組む姿を見ることが出来た。また学生からの意見等も常に参考にし、場合によっては次回授業の資料への反映を行ったことにより、スムーズな学びへと繋げることが出来た。
- ・実技における振り返りの実施は、学生自身が課題を発見することと同時に、今後どのように学びを進めればよいのか、という次への行動が見られ、こちらも適切なサポートを行うことが出来た。

(子ども学科)

- ・基礎練習の大切さを理解した学生は練習への取り組み状況がよく、結果、楽曲演奏の完成度も高い。

5. 今後の目標

- ・ICT 教育について様々な事例を調べ、自身の授業に活かせる方法を検討したい。
- ・電子黒板の活用に取り組みはじめてので、効果的な活用方法を検討していきたい。

6. 根拠資料

- シラバス
- 授業資料
- 授業評価アンケート結果
- 授業改善計画書
- 学生による授業振り返り結果
- 授業における板書の写真
- 電子黒板提示資料
- LINE を活用したフィードバック内容